チリの瓶詰めワイン輸出、9月までに5.2%減の9億270万ドル

輸出量は5.3%減少し、平均輸出価格の大幅な変化ではなく海外需要の低迷を示した

2026年11月20日（金）



業界団体Vinos de Chileの発表として、BioBioChileが11月19日（木）に報じたところによると、チリの瓶詰めワイン輸出額は2026年1～9月に9億270万ドルとなり、前年同期比で5.2%減少した。

輸出額の減少は、実際の出荷量の落ち込みとほぼ一致した。報道によると、同じ9カ月間の輸出量は5.3%減少した。金額と数量がほぼ同じ割合で減ったことから、需要の低迷を補うほど平均輸出単価が上昇したのではなく、おおむね安定していたことがうかがえる。

公表された輸出額と増減率をもとにすると、2025年1～9月の瓶詰めワイン輸出額は約9億5,220万ドルだったと推計できる。これに基づけば、今年は約4,950万ドル減少したことになる。ただし、この計算は公表された丸め後の数値に基づいている。

今回の数字は、チリを代表する農産物輸出品の一つを取り巻く海外市場の低迷を示している。BioBioChileによると、業界はアルコール消費の減少、供給過剰、輸出需要の低迷を特徴とする厳しい世界情勢に直面している。報道で取り上げられた生産者や市場関係者は、消費者の習慣の変化、他の飲料との競争、貿易をめぐる広範な不確実性も指摘した。

このデータは、チリから全ての仕向け地に向けて出荷された瓶詰めワインを対象としている。報道では輸出量の実数は公表されておらず、入手可能な数字からは商品構成、価格、為替変動の影響を切り分けることもできない。そのため、売上と出荷の縮小は確認できるものの、主要市場での需要低迷、特定カテゴリーの価格下落、輸出ワインの構成変化のうち、どの要因が減少をもたらしたのかを正確に分析することはできない。

それでも、全体像は明らかだ。チリは9月までに海外向け瓶詰めワインの出荷を減らし、販売収入も前年を下回った。輸出額は数量とほぼ同じペースで減少しており、今回の落ち込みは平均輸出価格の急激な変化よりも、販売ケース数の減少が主因だったことを示している。

BioBioChileによると、業界は複数の戦略を通じてこうした環境への適応を図っている。具体的には、ブドウ畑の面積縮小、低アルコール商品の拡充、ワインツーリズムへの注力、産地やアイデンティティの訴求、新たな輸出市場の開拓が挙げられる。こうした取り組みは、従来の消費傾向が変化するなか、生産者がチリワインの位置づけを見直す動きを反映している。

報道は、この業界の課題をワイン・アルコール飲料業界全体が直面する世界的な問題の一部と位置づけた。一部市場での消費減少を受け、複数の国の生産者が商品構成やマーケティング戦略の見直しを迫られている。チリにとっては、出荷が減少し、既存市場での成長余地が狭まるなか、国際ワイン貿易における地位を守ろうとする局面で、この圧力に直面している。

11月19日に伝えられた1〜9月の数字は累計データであり、11月の貿易動向を別途示すものではない。BioBioChileはまた、入手可能な情報だけでは、9月単月に改善があったとしても、その規模を測るには不十分だと伝えた。

輸出業者にとって、厳しい状況が続いている。瓶詰めワインは今もチリの主要な輸出品目の一つだが、最新の公表データによると、2026年第4四半期を迎えた時点で海外売上高は前年を下回っている。また、数量減少の影響が価格によって大きく和らいだことを示す材料は、これらの数字だけではほとんど見当たらない。